

江戸古川柳紹介

柄井川柳

さのこ取り何かおとした面つづき

冬の到来とともに、自作のキノコの句も底をついてきた。そこで趣向を変え古今のキノコの文芸について紹介してみたい。

キノコに関する文芸を調べてみると、俳句や川柳に出会うことが多い。季節の風流を詠んだ俳句もさることながら、人の世の生き様や人情を表現した川柳にも多くのキノコの句が見られる。

今回はその中でも「江戸古川柳」に焦点をあててみた。厳密に定義すると、古川柳とは江戸時代に作られた川柳のうち柄井川柳が選者として選んだもの（柳多留初編～24編まで、句の質が高いといわれている）を言うらしい。ここでは広く江戸時代に作られた川柳の中から探してみた。

草狩も内府は手前芸者也

■江戸の庶民の楽しみであるキノコ狩も、一方で大名や旗本といった支配階級の催し物の一つでもあった。この句をみると、酒宴の場を設けて芸者を呼び、賑やかに行う様がうかがえる。ここで「内府（内大臣）」というのは徳川家康のことをしていいるものと思われる。さすが天下の将軍様はキノコ狩に行くにも芸者を引き連れていく、ということなのだろう。

草狩やかなでし主馬が夢の跡

■この句もキノコ狩での酒宴に関する句である。芭蕉に「夏草や兵どもが夢の跡」という有名な俳句があるが、同じよう以往時を想い起こす句と見た。主馬（シユメ）というのは平家の武将判官盛久のことを指し、盛久が京都北山のキノコ狩の宴席で一曲奏でたという故事にもとづいた句と思われる。この話は能舞台の演目として知られている。

草狩（タケガリ）は紅葉狩より世帯じみ
 ■この句はキノコ愛好家の姿をよく表わしている。何故キノコの世界に興味をもつたかと聞かれて、いろいろ理屈を並べ立てるのだが、行きつくところキノコが食い物だということに落ち着く。キノコ採集をしながら同時に今日・明日の夕食のメニューをあれこれ思い悩ますのは江戸時代も今も同じかもしれない。

初草のさび声門に秋の風

■江戸時代に初物四天王と呼ばれたのが、「初蟹」「初茄子」「初草」「初鮭」である。それぞれ季節の魁（さきがけ）として江戸っ子の人気を博したという。初草はシーザンの最初に生えるのでこの名があるが、秋そのものの先駆けでもあった。初物を壳り歩くサビのきいた声が遠くから聞こえてくる。その声を聞いて季節の到来を感じるのである。

初たけはほめてる内に 出やむせ

■秋の気配をいち早く運んできた初草も、みんなが食べようという頃になると初物としての価値もなくなり、うかうかしているともう出なくなる。だからこそ誰も食べていない初物に価値があるのだろう。同じ古川柳にこんな句がある。「流行唄（はやりうた）覚える頃には もうすたり」

松草と何か云いたく披露して

■残念ながら松草に出会つたことがない。もしここかで幸いも見つけることが出来たら、このような心境になるのではないだろうか。とにかく誰かに自慢したい。しかし、言葉ではどう言つていいのか、心のうちを表現することはできそうもない。そういう会員の皆さんも、松草を披露している時は大概黙つてニヤニヤしているだけである。

松草の出そな名也 男山

■川柳で松草といえば、昔から言わざもがなである。意味深長な句が多く解釈も中々難しいものがあるが、この句は単純明快にしてどことなくユーモラスな感じである。松草の産地である京都にも男山があり、そこを詠んだ句かどうかは浅学にして不明である。

松草の夢 婚礼と乳母判じ

■年頃の姫君のことであろうか。そろそろよい縁談があつてもいいのではとヤキモキしていたところに松草の夢を見たという。しかし、私は夢でもいい今年こそ松草に遭いたい。舞音でもいい。

根のからむ松草 嫁は鎌で切り

■鎌は鎌倉の縁切り寺、東慶寺のこと。根がからむとは、夫が他の女と懲らなり深い仲になつたということらしい。嫁が思いあまつて離縁を求める東慶寺に駆け込んだのであるが、鎌で切るとはドキリとする句である。

しなびた松草 椎草の守役

■しなびた松草とは奥家老のこと。椎草は御殿女中を指す。椎草髪という髪の結い方から名付けられたという。同じ古川柳に次のような句もある。

椎草のひも 松草の品定り

■暇にまかせて御殿女中が男の品評会をやつてゐるさまである。

松草のよくな爺い婆あ お目出度い

■謡曲高砂に松の精の化身として老大夫婦が出てくる。夫婦長寿の象徴である高砂の松、その化身である老夫婦を松草のようだと表現したのは中々含みのある句である。

以上キノコに関して集めた江戸古川柳の一部を紹介してきたが、なにしろ「柳多留」だけでも11万句ありこの膨大な量の中からキノコの句を探し出すのは至難の技である。まだまだいろいろな句があるはずである。かなりきわどい句もあつたがこの紙面からは割愛する。また今回、多くの占川柳を紹介していただいた「東葛川柳会」会長の今川乱魚氏と「つくばね川柳会」会長の太田紀伊子氏に謝意を表す。

【参考図書】

- ・江戸川柳を味わう・東井淳・葉文館出版
- ・柳多留（全三巻）・山澤英雄校訂・岩波書店
- ・武玉川（全四巻）・山澤英雄校訂・岩波書店

